

Narita gate way★超少子高齢化問題を 訪日外国人へのインタビュー調査で考える



(FROM:USA)

-私達世代が直面する労働人口不足社会は海外との連携が必要不可欠だ！-

成田山教育財団 成田高等学校

3年E組(特進クラス) 山岡 璃音

【1・研究調査の目的と趣旨】

今、2020年の東京オリンピック控え、外国からの訪日客は「魅力にあふれた日本！」と口々に褒めてくれています。しかし、最近の新聞報道によると、22年後の2040年には、3人に1人以上が65歳以上の高齢者となり、労働力の担い手となる20歳～64歳までの人口が圧倒的に不足する。現在それについての即効性の有る、効果的な対応策は現実には講じられていないに等しい。こんな内容の記事を読み、私は大きな衝撃を受けました。

労働力不足が、大切な社会保障制度の崩壊すら招きかねない。全国自治体で財源不足・税収不足が起こるかもしれない、また、自然災害が発生しても復旧させる目途が立たない、通常の医療体制が維持できなくなる等、不安は尽きません。これらの記事を書いている現代では無く、私達世代がこのシビアな問題の主力納税者としての当事者になるのです。

これからの日本は世界からどう評価される国になっているのでしょうか。かつては輝く経済大国だったのに、と評されるのでしょうか。最も早く、超少子化・高齢化社会を迎える日本は世界中から、労働人口問題でも「日本のようになるな」と言われてしまうのか。私達高校生の年代は、この問題に、生涯に渡り厳しく直面する世代となる事は確実です。

私の住む町、千葉県成田市は日本の玄関口、成田国際空港を擁し、国際ビジネス・イノベーションの拠点として国家戦略特区に指定されています。この様な成田市の土地の利を生かして、海外からの来訪者に「少子高齢化についての意見」「あなたの国で少子高齢化の問題はあるか」「少子化を改善するには、どんな対策が有効か」「老後はどんな生活を望むか」等について、成田を訪れる訪日外国人に、インタビュー調査を行いました。

※Narita gate wayというタイトルは、成田空港が「異なる領域を変換してつなげる出入り口」になる事を意味しています。そして今後、全国の自治体が、日本に在住し定着し共に協働していく外国人の様々なgate wayになっていくのだ、という意味も込めています。

【2・聞き取り期間と調査方法】

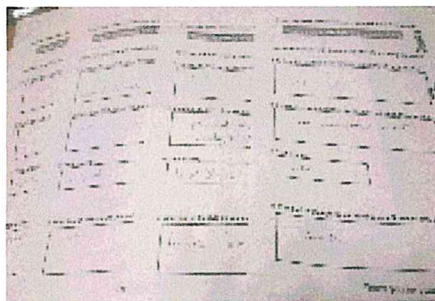
調査期間→1期目平成29年12月28日～12月31日：2期目：平成30年4月20日～平成30年5月3日

調査場所→成田国際空港近隣・JR成田駅付近・京成成田駅付近・成田山新勝寺付近他

調査方法→事前に英語のquestionnaire(アンケート形式の)を作成して、インタビューに応じて頂ける海外からの来訪者の方に、「日本での少子高齢化問題を知っていますか？」や「少子高齢化を改善する方法は？」

「あなたは老後にどんな生活を望みますか？」等話しやすい項目からインタビューさせて頂きました。

また、日本に長期で滞在している方には、このまま長く住み続けたいかを質問させて頂きました。



1-1(できるだけ幅広い年齢層・多くの国籍の方にアンケートとインタビュー調査を行いました。)

1-2(少子高齢化・あなたの国では同様の問題は存在するか？少子化・高齢化問題の改善策は？の点について記載してもらいながら話をするというスタイルで調査。)

1-3(移民の多いヨーロッパでは出生率が上がっているドイツ等も有り、ヨーロッパでの改善策は？男性の育児意識が高いという。)

【3・聞き取り調査出来た国一覧】

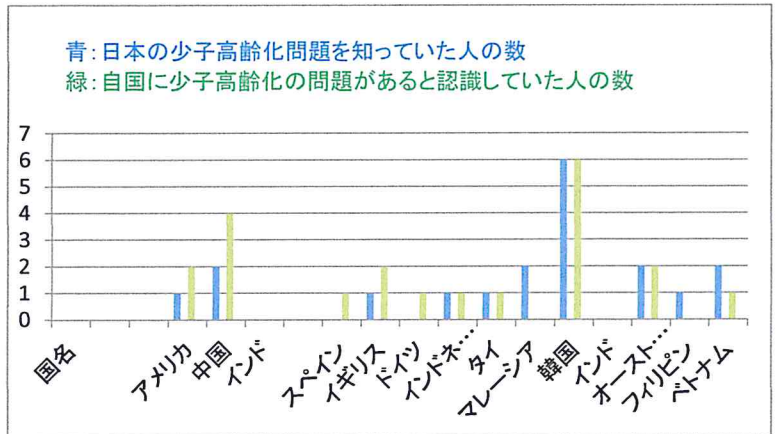
国名	A少子化・高齢化の認識	Bそれらの改善策や意見	C自国に同様の問題があるか	D老後はどう過ごしたいか	(仕事等で滞在している方に) E日本に住み続けたいですか。
アメリカ	7	7	7	7	3
中国	6	3	4	4	2
インド	3	3	3	3	1
スペイン	2	2	2	2	2
イギリス	2	2	2	2	1
ドイツ	2	2	2	2	1
インドネシア	4	4	4	4	4
タイ	5	5	5	5	4
マレーシア	3	3	3	3	3
韓国	8	8	8	8	4
インド	3	3	3	3	3
オーストラリア	9	9	9	9	5
フィリピン	6	6	6	6	4
ベトナム	2	2	2	2	0
14か国	62	59	60	60	37

【4・聞き取り調査の具体的な意見・回答】

A: 日本では少子高齢化の問題がありますが、あなたの国に同様の問題がありますか？

という問いに関しては USA・インドネシア・タイ・インド等の国の多くの方が「NO」と答えています。以下が回答からの抜粋です。

- ・少子化は無い。逆に増えすぎている問題の方がより深刻だよ。(インド:男性)
- ・日本の少子化高齢化はあまり感じなかった。日本は経済発展しているので、大きな問題とは思わない。(タイ:女性)
- ・韓国も少子化が進んでいるが、韓国の中でも地域によって状況が多少違うと思う。若い人が海外へ出てしまい、経済へのダメージが心配。(韓国:男性)
- ・日本の少子化は知らない。どこの国も高齢者は増えてきているよ。高齢者が増えるのは自然の流れだと思う。(スペイン:男性)
- ・人口が増えるのは良いことではない。難しい問題。(フィリピン:女性)
- ・東京ではとても人が多かったので、人口が減っているとは思えないが忙しすぎるのが問題なのでは。(オーストラリア:男性)
- ・日本食はとてもヘルシーでアメリカでも有名です。日本食を食べて、エクササイズをすれば、長生きできると聞いたことがあるよ。アメリカでは少子高齢化の問題はないと思う。(USA:男女)
- ・観光は本当に楽しい。でも住むのは自分の国が良い。子供が少ないのは知らなかった。(ベトナム:女性)
- ・アジアは子供が育てやすいと思う。日本だけが特別少子化とは思わない。(USA:女性)



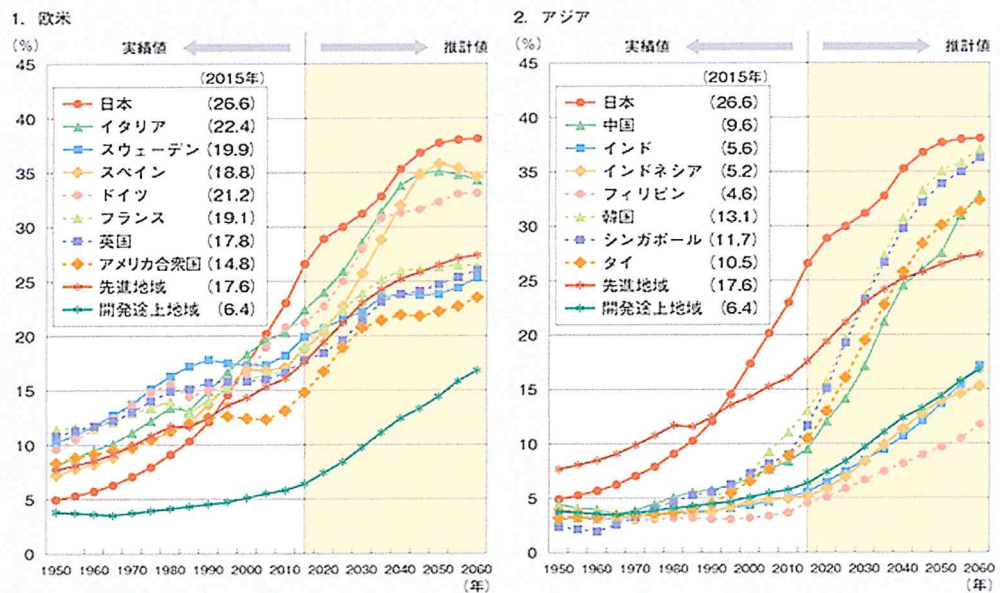
↑
上の図がインタビュー調査で回答のあった少子化・高齢化の認識度です。訪日外国人のほとんどが、日本が深刻な少子高齢化をむかえつつある事を知らないと答えています。

世界の高齢化率(65歳以上の人の割合)の推移 (内閣府高齢社会白書より引)



↑
市内の65歳以上の高齢者の方
お話を伺いました。

- ・病院で長く入院するような老後の生活はしたくない。
- ・できれば住み慣れた自宅で過ごす生活が希望。
- ・病院はありがたいけれど、希望しない検査が多かったり薬の種類が多すぎたり、誰に相談して良いかわからない事も多い。
- ・税金や医療費負担の割合が高くなると、仕事が無い高齢者は生活が大変になる。等具体的な意見をお伺いすることができました。

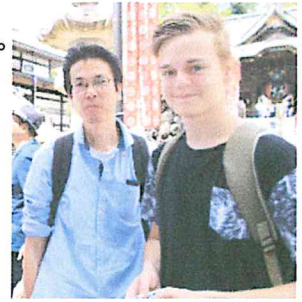


資料: UN, World Population Prospects: The 2015 Revision
ただし日本は、2015年までは総務省「国勢調査」
2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。
(注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。
開発途上地域とは、アフリカ、アジア(日本を除く)、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

B: 少子化・高齢化について良い対策や、高齢者が増える社会に対応する為のアイデアはありますか？
 (労働力不足や社会保障制度の質の低下への不安等について)

という問いに関しては
 回答してくださった多くの国の方が 様々な意見を出して下さいました。以下が回答からの抜粋です。

- ・インドネシアでは皆、早く結婚しているから子供が多い。(インドネシア:女性)
 ⇒**婚期が早い事が出生率を上げている**
- ・高齢者が増えているのは、昔からだと思う。中国は日本より老人が多いと思う。(中国:女性)
 高齢で働いている人も多し、リタイアは出来ない。のんびりできるという人は少ない。
 ⇒**公的なサービスに頼れないという自立心・生涯現役**



- ★1・日本は先進国だから、医療が充実して長生きできるので高齢者が増えるのは自然。(USA:男女)
 医療が進んでいるから子供の病気等も治療出来るので、安心な国だというイメージがある。
 ⇒**過剰な延命医療や医薬品の過剰投与等の医療費増大の改善**
 ⇒**格差社会の広がり、日本でも医療格差が出てきたと言われている**

※(同年代のオーストラリアからの学生さんです。オーストラリアでは少子高齢化は、特段感じないけれど自分が年を取ったら、のんびり自国で家族で過ごしたい。と話してくれました。)

- ・日本人はもっと人生をロマンティックに過ごすべきだね。そうすれば自然に子供も増えるよ。
 ⇒**仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)** (オーストラリア:男性)
- ・もっと人生をエンジョイすることが大切。悲観しないで。(オーストラリア:女性)
 ⇒**仕事オンリーの生き方を避け、世の中との関わりを広く持つ生活**
- ・子供の時から意識させて活動的・健康的な生活を送る。(オーストラリア:男女)
 ⇒**生活習慣病予防の食生活・継続した運動の大切さ(寝たきりや痴呆症防止)**

※(同行の日本人の方は子供にかかる教育コストが下がれば自然に出生率は上がるのではとのご意見でした。)

- ・病気や寿命は考えてもしょうがない。誰でも年を取るんだから。(イギリス:男性)
 ⇒**個々の宗教観・生死感の尊重・物事を楽観的に捉える**

- ★2・不足する労働力には、移民や外国人労働者を受け入れる。(USA:男性)
 ⇒**日本の社会を外国人を長期的に受け入れる社会へ変えていく必要がある**
 ⇒**労働環境や、社会保障も日本独特の形態から徐々にグローバル化していく**

★2→
 more immigration intake.....という意見が有りましたが、同様の意見は60件中13件ありました。

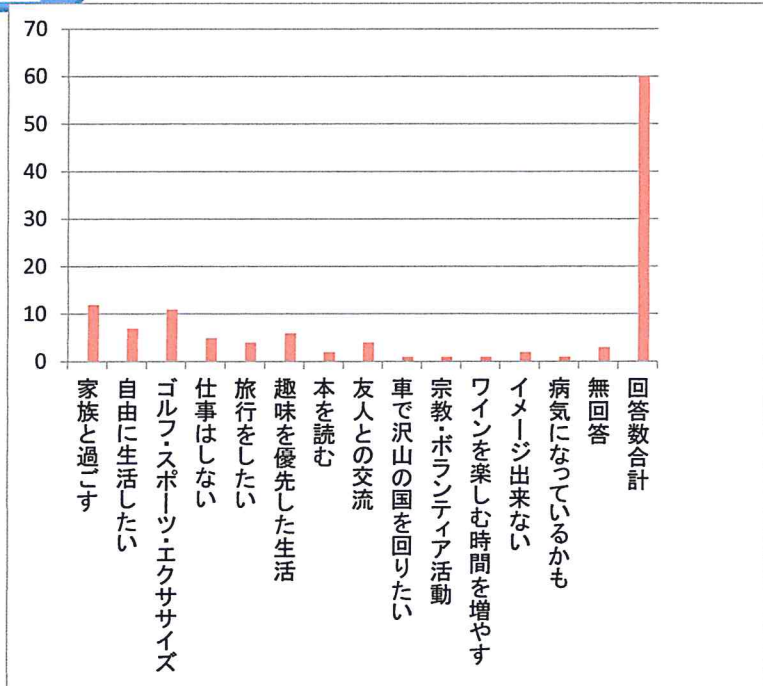
★1→prenatal careと言われて知らない単語だったので、調べた所意味は妊娠する準備や妊娠中の健康管理。healthy lifestyleも、良く会話に出てきました。家族を持つ教育を学生時代からしっかりと行うことも重要な事と感じました。

聞き取りした時の
 気になるキーワード

C: あなたは、どんな老後を過ごしたいですか？
 自分が年をとった時のことを想像してみてください。
 以下が回答からの抜粋です。



(回答してくださったオーストラリアからのご夫婦。年齢を感じさせないアクティブさ、にびっくりしました。お話をお聞きすると、アジアを数か国旅行をして回りたいとの事。「健康の秘訣は、生活を楽しむ事！」勉強も楽天的に楽しんで！と声を掛けて頂きました。)



◇どんな老後をすごしたいか: インタビュー結果◇

E:
現在、日本で働いている人・留学している人にお聞きしました。将来日本に残り働き続けますか？
(日本は海外の人にとって魅力的な国なのでしょうか)
以下が回答からの抜粋です。



・インドネシアから技術習得や工学系企業研修の参加で来ています。
研修期間が満了後帰国します。
日本の技術や企業の生産システムは母国と比べ物にならないくらい発展していますが
家族がインドネシアにいるので、日本で勉強した後は、母国で仕事をします。
知り合いも沢山できたので、また日本に来てみたいのですが、次に来日できるのは
まだ分かりません。日本に長く住むことは出来ないと思います。(建設:企業研修)

・留学先に選んだのは、治安が良い事が一番の理由、
留学終了する6年後に日本に残るか再度考えます。
(ベトナム:医療留学)

・航空貨物企業で働いています。
契約期間は3年ごとです。日本の生活にはなれましたが
長く働けるかは良く分かりません。(フィリピン:航空貨物)

【4・調査のまとめ】

・訪日外国人へのインタビュー調査で沢山の外国人の方々
に直接お会いでき、意見を生で聞く事が出来、本当に勉強になりました。
予想以上に、インタビューに丁寧に答えて下さる人が多かったのが
印象に残りました。
また、日本の少子高齢化への対策を考えるだけでなく、日本に来て
働いている外国人の方々の率直な意見を聞く事ができ、継続的な
調査を行いたい、という思いを強くしました。

少子高齢化の聞き取りでは、移民をもっと寛容に受け入れれば、それほど問題ではない、という趣旨の回答が多数でしたが、
特に、アメリカやオーストラリアは、移民国家である為、逆に日本のように、移民を厳しく制限して、目的に沿った受け入れを
していることが、労働力不足を改善できない事だと、見る人が多かったようです。

また、私達世代が働くようになる頃には、企業も従前通りではなく、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)
の取れた経営企業が支持され、もっと広く認知されていくべきと感じます。
株価を上げ、企業の価値を上げるだけでは国内市場は衰退し、長い目でみれば、私達若い労働力も語学ができる人・
優秀な能力を持つ人から、海外へ頭脳流出して行くリスクも避けられません。

本人の意向と異なる遠隔地への転勤を減らし、遠距離通勤をできるだけ出さない労働スタイルを国や自治体が率先して
コンセンサスを作り、個人の時間を増やし、それが家庭へ還元されれば今よりも、多くの人が育児や介護に充てる時間
が出てくるのではないのでしょうか。育児休暇や介護休暇も制度だけでなく、取得した割合の高い企業には、更に高い優遇措置を
設けるべきだとも感じます。

この他にも、私達日本人が想像している以上に、一時的に滞在する場合には素晴らしい国だが、長期滞在するには、面倒な点
が多いと感じている外国の方が多くにも気づかされました。

(聞き取りで集まった、日本に滞在中、こんな事で困ったので・・という声の一例です。)

- 1・外国人支援センターのようなサービスがあるが、本当に急に救援が必要になった休日や深夜の対応窓口が無かった。
- 2・支援してくれる日本人スタッフの語学レベルが低く、正確な意思が伝わらず、手続きに時間が掛かった。
- 3・イスラム教なので、昼休みのお祈りを奇異な目で見られたりして苦痛を感じた。
- 4・ハラルへの理解が無く、食事が大変だった。
- 5・企業研修で来日したが、飲酒の多いイベントが多く戸惑った。終業後の行事が多かった。
- 6・プライバシーを侵害された。

ほとんどの来日外国人・滞在されている外国人の方は、日本を好きになって下さる方が多いので是非このまま、日本との縁
大切に日本に残って頂きたい、またいつか再訪してほしいと思いました。

特に、日本語を苦勞して習得し、生活環境に慣れた頃、就労の契約が切れてしまう。給与が大変安くて英語ができる場合は、
より定住しやすい英語圏へ働き口を替えてしまう人が多いという事は、日本の外国人人材育成の多くのコストを無駄にしていると思います。

また、留学や企業研修、技能習得で日本に来て、日本で引き続き住み続けたい、という意見が少なかったことも個人的には
残念でした。観光交流から、先に踏み込んだ経済交流へ発展できるよう「グローバル化」は「私達の生活ルールも少しづつ変えていく事」
「異文化を受け入れる生活様式に馴染む事」だと再認識しました。

国内の様々な自治体が、それぞれの町の特色を活かした、海外へのgate wayになるように、更に日本の素晴らしさを多くの外国人の
方に知って頂けるような支援活動・そして私達で可能な限り、このような定点調査を続けて行きたいと思っています。

◇◇参考文献

内閣府高齢社会白書 世界の高齢化率の推移
法務省「人口減少時代における出入国管理行政の当面の課題～円滑化と厳格化の両立に向けて～」

◇◇本文内に掲載した写真

取材時に写真の使用承諾を得て掲載しています。インタビューにご協力頂いた皆様、ご協力ありがとうございました。

